

『沖縄戦デジタルアーカイブ』が文化庁メディア芸術祭、アジアデジタルアート大賞展でダブル入選

終戦 70 周年を迎える今年、首都大学東京システムデザイン学部の渡邊英徳研究室と、沖縄タイムス、GIS 沖縄研究室が共同で制作した、1945 年 3 月～6 月までの沖縄戦の推移をたどる『沖縄戦デジタルアーカイブ ～戦世からぬ伝言』が、「第 19 回文化庁メディア芸術祭」においてアート部門・審査委員会推薦作品に、「2015 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA」においてエンターテインメント(産業応用)部門・入賞作品に選ばれました。

作品は 2016 年 2 月に、「第 19 回文化庁メディア芸術祭」(於：国立新美術館) および「アジアデジタルアート大賞展」(於：福岡アジア美術館(予定)) にて展示される予定です。

1. 第 19 回文化庁メディア芸術祭 <http://festival.j-mediaarts.jp/>
2. 2015 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA <http://adaa.jp/2015/index.html>

【受賞作品】

作品名： 「沖縄戦デジタルアーカイブ」

<http://okinawa.mapping.jp/>



概要: 多元的デジタルアーカイブズの技術を応用し、沖縄戦当時の立体的な航空写真と地図に、写真や証言を重ね合わせて 1945 年 3 月の米軍上陸から 6 月までの沖縄戦の推移を可視化。戦争体験者のインタビュー動画や記事も登録されたアーカイブ。

製作者:

- ・ 渡邊 英徳 (首都大学東京)
- ・ 沖縄タイムス社
- ・ 渡邊 康志 (GIS 沖縄研究室)

※沖縄デジタルアーカイブの詳細は別紙をご参照ください。

1. 文化庁メディア芸術祭について

文化庁メディア芸術祭は、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの 4 部門において優れた作品を顕彰するとともに、受賞作品の鑑賞機会を提供するメディア芸術の総合フェスティバルです。平成 9 年度(1997 年)の開催以来、高い芸術性と創造性をもつ優れたメディア芸術作品を顕彰し、受賞作品の展示・上映や、シンポジウム等の関連イベントを実施する受賞作品展を開催しています。

本年度(第 19 回)は、過去最多となる 4,417 作品の応募があり、海外からは 86 の国と地域から 2,216 作品の応募がある国際的なフェスティバルです。

今回、「沖縄戦デジタルアーカイブ」は、アート部門に応募された 1,946 作品の中から、審査委員会推薦作品に選ばれました。首都大学東京の渡邊英徳は、南太平洋にある島国・ツバルの日常風景を Google Earth 上にマッピングして可視化した『ツバル可視化プロジェクト』（2009 年）、長崎原爆の実相を世界に伝えるための『ナガサキアーカイブ』（2010 年）の受賞に続いて、3 作品目の受賞となります。

2. アジアデジタルアート大賞展について

アジアデジタルアート大賞展は、北部九州からデジタルコンテンツの創造を担う高度な技能と豊かな感性を持つクリエイターの発掘・育成の場として 2001 年にスタートしました。このコンペティションは、高度なメディアテクノロジーを背景に論理的な思考と芸術的感性との融合、さらにアジアの文化、風土に根ざした世界レベルのメディアアート作品の公募展です。

プロフェッショナル・クリエイターを目指す方々を対象とするカテゴリーA（静止画部門、動画部門、インタラクティブアート部門、エンターテインメント（産業応用）部門）と、デジタルアートに興味のある方々向けエントリーコースとしてのカテゴリーB（静止画部門、動画部門）から構成されています。

今回、「沖縄戦デジタルアーカイブ」は、カテゴリーAに応募された作品の中から、エンターテインメント（産業応用）部門の入賞作品に選ばれました。首都大学東京の渡邊英徳は、2011 年に広島原爆の実相を世界につたえる『ヒロシマ・アーカイブ』により、エンターテインメント部門大賞・経済産業大臣賞を受賞しています。

【お問合せ先】

首都大学東京

システムデザイン学部 インダストリアルアートコース 准教授 渡邊英徳

TEL: 042- 585-8606

E-mail: hwtnv@sd.tmu.ac.jp URL: <http://labo.wtnv.jp/>

沖縄タイムス社

デジタル局デジタル部 TEL: 098-860-3582

E-mail: media-desk07@okinawatimes.co.jp

URL: <http://www.okinawatimes.co.jp/>

GIS 沖縄研究室

渡邊康志

E-mail: ywata@gis-okinawa.jp

「沖縄戦デジタルアーカイブ」について

沖縄戦を未来に継承するために、首都大学東京システムデザイン学部の渡邊英徳研究室と、沖縄タイムス、GIS 沖縄研究室が共同で制作した多角的デジタルアーカイブです。

URL : <http://okinawa.mapping.jp/>



【アーカイブの特徴】

沖縄戦当時と現在の立体的な航空写真と地図に、沖縄タイムスの連載「戦世からぬ伝言（いくさゆーからぬちてーぐとぅ）」、「語れども、語れども」で掲載してきた写真や証言を重ね合わせ、1945年3月から6月までの戦争体験者が避難した足取りを可視化しました。体験者へのインタビュー動画や記事もご覧いただけます。また、米軍が最初に上陸した読谷(よみたん)村の村民はどこで死没したのか、米軍に追い詰められた具志頭(ぐしちゃん)村民はどこで亡くなったのかについて、比較検証することが可能です。

さらに特設ウェブサイト全体を通して、沖縄戦の始まりから、2015年現在に至るまでの沖縄の歴史を知ることができます。

- 沖縄戦デジタルアーカイブ・特設サイト (沖縄タイムス社)

<http://www.okinawatimes.co.jp/sengo70>

【技術とコンテンツ】

これまでに、首都大学東京・渡邊研究室が制作した「ヒロシマ・アーカイブ」(2011年7月発表)や、「東日本大震災アーカイブ」(2011年11月発表)などの「多角的デジタルアーカイブズ」の技術を応用し、戦前の航空地図や地形図については、GIS 沖縄研究室(主宰・渡邊康志)が制作、沖縄県公文書館所蔵の米軍が撮影した沖縄戦当時の写真もふんだんに盛り込みました。なお、読谷村と具志頭村出身者の戦没地の比較は、沖縄タイムスとGIS 沖縄研究室が制作した「具志頭村～空白の沖縄戦」(2014年6月発表)の成果を生かし、制作しました。

本アーカイブはまだ完成していません。今後も写真やインタビュー動画などの様々なコンテンツを追加していく予定です。

【今後の展開】

このプロジェクトは、沖縄戦の次世代への継承を大きな目的としています。

小中学校の平和学習の教材として、高校生や大学生向けとしては、実際に戦争体験者への聞き取り調査を行い、そのインタビューや写真、動画などを沖縄戦アーカイブに登録するなどして活用いただく予定です。また、修学旅行生向けの事前学習ツールとして利用することもできます。幅広い、参加型のプロジェクトとして発展させていきたいと考えています。

【参考情報】

「沖縄戦デジタルアーカイブ～戦世からぬ伝言」を公開しました（2015年6月19日）

<http://www.tmu.ac.jp/news/topics/11500.html>